

令和３年度 第２回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1. 開催日時

令和３年９月２８日（木）１３時３０分～１５時３０分

2. 開催場所

中部森林管理局 局長応接室（対面及びweb併用）

3. 検討内容

- （１）国有林材供給調整対策について
- （２）情報交換等
- （３）その他

4. 検討結果

管内においても原木価格の高騰や原木不足の状況は依然として続いている中で、国有林材については早期発注等により計画的な供給を進めてきたところであるが、８月１２日からの大雨の影響により出材が一時停止するなどの影響も出ている。

また、川下においても、柱や土台等の構造材を中心として製品価格の高騰が続いているが、外材製品の供給見通しが不透明な状況の中、今後も国産材需要がこのまま推移するか否かは管内の各事業体でも見解が分かれており、これから秋の需要期を迎える中で引き続き需給や価格動向を注視していく必要がある。

こうした状況から、今般の価格高騰をもって、直ちに供給調整を行う必要はないが、引き続き国有林材の安定的かつ計画的な供給に取り組む必要があることから、特に大雨による供給への影響を最小限とするため、一刻も早い林道等の復旧等に努め、とりわけ生産事業の継続に最大限努力することが重要である。

また、国有林のネットワークを活用した情報収集と関係者間での情報共有を継続し、国有林材の供給に当たっては、市場やユーザーの要請に的確に応えながら取り組むべきである。

5. 委員意見等

○８月の大雨で当社の請負事業箇所も被害を受けた。山側としては車両系だけでなく架線系に切り替え、山の保全に配慮したい。林業に参入する若い人が少ない中で、労働者の確保のためにも ICT 化を進めながら、現場の安全確保や省力化を進めていきたい。

○若い人のモチベーションを上げて持続可能な森林経営を行うことが一番重要な課題。一人当たりの生産性は機械化等により上がってきているが、それだけでは限界がある。労働者の賃金等、雇用条件を改善しないと今後の林業は厳しくなる。

○今の丸太価格は市場の製品価格に見合った価格による上昇であり問題はなく、生産調整により量を絞り込む方が問題。利益が出た分を山側の人材不足等へ手当することが必要。

○ヒノキ丸太では昭和 54 年の 5 万円/㎡が過去最高となっている。山側が成り立つには今よりも平均価格が上がらないと厳しい。今後は間伐量の引き上げや皆伐へのシフト、架線系の技術継承や導入への補助も必要。丸太は A ～ D 材と多業種に供給が必要なことから川上～川下の連携が重要。

○ヒノキの並材価格は素材・製品ともに倍になっているが、役物等良材の需要がなく、平均すると 15 ～ 20 %の上昇でしかなく、山側からするとトータル的に増えていない。供給量を増加させるには人材確保が必要であり、賃金は最低でも 500 ～ 600 万円必要で、さらに作業現場までのインフラ整備も必要。

○現下の製材需要に対し山側が対応しきれていない。皆伐事業地の支援に取り組んでいるが生産量は昨年並みであり、県として事業者と一体となって経営計画の取り纏め等を行い、いつでも伐れる事業地の確保に取り組んでいるところ。